

事業所名 大蔵児童デイサービス レント 児童発達支援

支援プログラム

作成日

令和7 年

1 月

26 日

法人（事業所）理念		教育は心なり、人なり、環境なり、豊かな幼児体験を					
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>●躰の三つの基本として 1.挨拶は先に。2.返事は『ハイッ』。3.椅子を入れることを指導する。</li> <li>●ソーシャルワークを向上させ、生きていく上での基礎を作る。</li> <li>●子どもの興味・関心のあるものを見つけ、又、その部分を伸ばし自信につなげていけるようにする。</li> </ul>					
営業時間		9 時	0 分から	16 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、ADL(日常生活動作)スキル獲得を支援します。</li> <li>●小学校就学に向けて、40分間座って過せるようにします。</li> <li>●学園理念の「三つ子の魂百まで」にの理念を一人ひとりに沿った方法で支援をしていきます。</li> </ul>					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コスモスポーツ監修のもと、足裏を動かす運動を取り入れ、脳を刺激する機会を多くします。</li> <li>●持久力を高めるため、達成カードを用いて目的を持ってマラソンをしたり長距離散歩に出かけます。</li> <li>●サーキット遊び、バランスボール、トランポリンといった感覚運動遊び小集団で行います。</li> </ul>					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●聴覚・触覚などの感覚を使い認知機能を発達させます 具体例) ピアニカ ドラムセット 木琴 タブレット パソコンマウス操作 粘土 スライムなど</li> <li>●1日の時間別活動を示すボードを作り、子ども自身が今何をするのか理解ができ、見通しをもって活動することができます。</li> <li>●視覚から入る情報をより分かりやすくするため、マカトンサイン(ジェスチャー)やSSTカード(ソーシャルスキルトレーニングカード)を使い支援を行っていきます。</li> </ul>					
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美しい日本語が獲得できるように、職員はわらべ歌音階を用いて話したり、わらべ歌ゲームをして支援をします。</li> <li>●しっかりと発音をすること目的に舌を活発に動かす『舌トレーニング』を毎回行います。</li> <li>●様々なフラッシュカードやバーチャル的な最新IA学習プログラムを取り入れ、言葉の獲得数を多くできるように支援していきます。</li> </ul>					
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発達を飛び越えず一人遊びを十分に経験してから小集団遊びへとつなげていくようにする。</li> <li>●小集団の中で自分の名前、生年月日、好きな食べ物を発表する経験をすることで自分のこと他児に知ってもらい楽しさをする。</li> <li>●人との関わりの中で『自分がされて嫌なこと』を他児にはしてはいけないという心を持てるようにしていき、人への思いやりの基礎を築けるように支援していく。</li> </ul>					
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する困りごとへの相談援助</li> <li>・携帯アプリによる連絡事項発信</li> <li>・定期的に子どもたちの様子を動画配信、写真配信など</li> <li>・子育てや障害に関する情報提供</li> </ul>			移行支援		必要に応じて幼稚園・こども園・就学する小学校と連携を行います。小学校就学前に保護者の希望があればちえりあに引率します。保護者や本人が相談室を使用したい場合は紹介業務を行う。
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園 幼稚園との連携をします。</li> <li>・地域の中に事業所があることを住民に理解して頂くため、町内会等へ出向いて説明をします。</li> </ul>			職員の質の向上		児童発達支援の5領域と幼稚園教育要領における幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を職員間でリンクし、子どもにとって最良の療育を提供するための研修や会議等で質の向上を図ります。
主な行事等		日本の伝統行事等は各学園で行っているため、事業所では基本行わない。当該事業所では達成カードやゲーム性のある療育を取り入れ、児童が毎日「わくわく、ドキドキ」子どもたちに取って毎日が行事のような環境を提供できるのを目指します・					